

研究・調査報告書

報告書番号	担当
67	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Risks of a range of alcohol intake on hepatitis C-related fibrosis. C型肝炎による繊維症におけるアルコール摂取の危険程度	
執筆者 Monto A, Patel K, Bostrom A, Pianko S, Pockros P, McHutchison JG, Wright TL.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Hepatology. 2004 Mar;39(3):826-34.	
キーワード C型肝炎、繊維症、アルコール摂取	
要旨 <p>米国やヨーロッパにおいて、C型肝炎は肝臓移植を必要とするような肝硬変をもたらす一番の原因となっている。しかしながら、C型肝炎に慢性的に感染した患者が深刻な肝疾患へと進展することはあまりなく、各個人に関係する年齢、アルコール摂取量や性別といったファクターが肝疾患の悪化と関連していることが疫学的に示されている。アルコールの大量摂取は慢性C型肝炎感染の進展の一因であることが言われている。しかしながら、このことが適度なあるいは軽度のアルコール摂取についてあてはまるかどうかについては検討がなされていない。軽度のアルコール摂取は延命効果があり、多くの慢性HCV患者でも軽度のアルコール摂取が実施されている。この研究では、アルコール歴の詳細な記録があり、3カ所の肝生検を行なった800人のHCV患者を調べ、アルコールと肝繊維症の関連を調べた。</p> <p>単変量解析の結果、大量アルコール摂取 (>50 g/day) によって肝繊維症が増加していることが明らかとなった。このような肝繊維症悪化との関連は、軽度あるいは適度な飲酒を行なっているものでは見られなかった。多変量解析では、年齢、血清 alanine aminotransferase (ALT)、組織学的にみた炎症の発症といった指標が肝繊維症発症のそれぞれ独立した指標となっていることが明らかになった。結果として、大量のアルコール摂取は確かに肝繊維症の発症に多大な影響を及ぼしているが、軽度あるいは適度の飲酒を行なう場合には肝繊維症の発症には影響がないことが示された。また、アルコール摂取量以外に、年齢、血清 ALT、炎症がそれぞれ独立した肝繊維症の指標となっており、肝繊維症の発症に大量のアルコール摂取以外にも促進因子があることが示唆された。</p>	